広報 下之郷

No.102

発行日　２０１５．２．１
編集　発行　郷づくり広報部会
発行責任者　下之郷区長

＝自然を愛し　人を愛する
豊かな心を　育てよう＝

老人クラブしめ縄づくり　2014. 12. 13

目次:

新年のごあいさつ　区長・農業組合長	1
区四役等選挙/祝新成人/自警団初出式/ｱｸｾｽ数500突破	2
老人クラブしめ縄作り/子どもしめ飾り作り	3
もちつき大会	4
老人クラブ文化祭／せせらぎフェスタ 日赤奉仕団研修旅行／茶枳尼天尊像掛軸	5
区民のつどい/人権よもやま話⑱	6
漢字クイズ/ちょっとひとこと/短歌／懐かしの風景㉔	7

私たちの区

2015. 1月1日現在

*戸数　236戸
*人口　男　363人
　　女　381人
　　計　744人

★ホームページ「清流と水車の里下之郷」　http://shimonogo.under.jp/index.html

区長　上野　清治

新年、あけましておめでとうございます。区民の皆様方におかれましては、平成27年の新春を晴々しい気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。日ごろ、区活動、行事に何かとご支援ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。4月から何とかやってこられたのも皆様方のお陰だと感謝しております。本年も引き続きよろしくお願いいたします。

さて、阪神 淡路大震災から20年の節目を迎え、マスコミは追悼の様子をはじめ、その時の経験や教訓を伝えるために特集報道をしています。それは、同時に4年目になる東日本大震災にも結びつきます。当区でも、防災についての、「自助 共助」の意識も随分高まってきました。12月には、防火防災の観点から自警団組織について、夜回り、区役員規程と共に、各組で常会を開き、話し合いをしていただきました。しかし、社会の変革、少子高齢化の波は、これだけでなく、区のさまざまな組織や行政について、年々早急な改革改善を迫ってくると思われます。日本創成会議が2040年の消滅都市に上げた本町の65・5%は、若い2，30代の女性の流出が大きいことを表しています。すでに、いくつかの区では、未来の区の在り方の検討に入っています。本区でも、下之郷の将来について考え取り組む元年となります。震災に見舞われ、不安、絶望、恐怖、無力感、悲嘆の現場の中で、勇気や希望をもたらしたのは、子どもたちです。地震から3日後に瓦礫から泣き声を上げて知らせていた生後4ケ月の赤ちゃんを抱える自衛隊員の写真。避難所で何よりも被災者に元気を与えたのは子どもの笑顔と笑い声であるといいます。区の餅つき大会やしめ縄作りでの生き生き輝く子どもは、ありがたい存在です。子どもたちをはじめ若者が、安心して暮らせる郷は、同時に多くの区民にとっても住みよい郷だと理解し、これからも一歩ずつ着実に歩んで行きたいと思います。

農業組合長　阪東　力

あけましておめでとうございます。

謹んで新春のごあいさつを申し上げます。

平成27年の年頭にあたり下之郷農業組合員の皆さまから旧年中に賜りましたご支援ご協力に対し厚くお礼を申し上げます。

さて、昨年は全国各地で異常気象による災害に見舞われた年でありました。

当地においては、大きな災害は幸いにも少なかったのですが、西日本では8月の日照不足と多雨が戦後最悪となり農作物の生育遅れなどの影響も出ました。

特に水稲におきましては、日本の平均作況指数101を大きく下回り、滋賀県の作況指数は97となり収量が大きく低下しました。品質においても日照不足の影響を受け、乳白粒が多く上級比率も50%を割る品質低下となりました。

26年産米価につきましては、ご存じのとおり消費の減少と慢性的な過剰在庫により、2年続きの下落となり25年産米から約3000円の低米価となり、品質 収量 低米価と生産農家にはトリプルパンチとなり、農家の再生産意欲を萎えさせる結果となりました。

農政に関しましても、経営安定対策の見直しによる交付金額の減少、5年後には国による生産調整の廃止、また農業を産業として位置づけた大規模担い手への農地集積を加速させる農地中間管理機構の設置など小規模農家には大変厳しい農業情勢となって参りました。

この様な農業環境ではありますが、下之郷の自然環境 田園風景 農地を区民みんなで守り後世に受け継いでいかなければなりません。

27年度は下之郷が作成いたしております 人 農地作成プランに則り将来の下之郷農業を守るため一歩一歩着実に歩んで参りたいと考えておりますので、区民皆さまのご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、皆さまのご健勝をご祈念いたしまして、新年のごあいさつといたします。

区四役等選挙

1月11日(日)、区四役副分館長選挙が行われ、次の方々が当選されました。たいへんご苦労様ですが、平成27年度の運営をよろしくお願いします。

区長　西堀　傳藏
副区長　神辺　功
農業組合長　古川　悟
副農業組合長　高井　健一
副分館長　安澤　浩武
※分館長　辻　忠弘

祝新成人

1月11日(日)、甲良町の成人式が行われました。

今年、当区で新成人となられたのは次の方々です。

高齢化問題に直面している下之郷のこれからを支える人材になっていただきたいと願っております。

【新成人】
川並義和(光男)
辻　亨(啓司)
藤堂　雄斗(悦雄)
安澤　英也(益明)

自警団初出式

1月3日(土)、自警団の出初め式がありました。

大雪のため、社務所でお祓いを受けたあと、除雪しながら、区内の消火栓の点検活動をしていただきました。

アクセス数500突破

年5回発行の広報を補完し、区内の情報をリアルタイムにお伝えするツールとして昨年8月に開設した下之郷のホームページへのアクセス数が500を超えました。

閲覧の仕方は簡単です。検索エンジンのyahooやgoogleで「清流と水車の里」と入力して検索すればアクセスできます。携帯端末からも見られます。　「まだ見たことない。」という方、ぜひ一度アクセスしてみてください。

老人クラブしめ縄作り

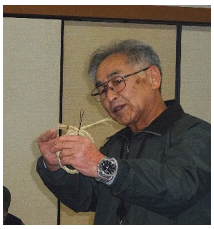
12月13日(土)、老人クラブ恒例のしめ縄づくりが行われました。

毎年来て下さるベテランに交じって新しいメンバーの顔も、ちらほら見えます。

しめ縄作りの技術がこうして次世代に伝承されていくのは頼もしい限りです。

できあがったしめ縄は、お祓いを受けた後、区内の施設に飾られました。

子どもしめ飾り作り



老人クラブのしめ縄作りの翌日、今度は子どもたちのしめ飾り作りが行われました。

指導してくださるのは西堀治男さんです。しめ飾りの細々とした材料を1ヶ月以上かけて準備して下さいました。

「大変だったでしょう。」と尋ねると、

子どもたちが喜んでくれる顔を見たら、疲れなんか吹っ飛ぶね。」

と笑顔で答えられました。

もちつき大会

12月21日（日）には、こどももちつき大会を行いました。

「きらり下之郷」からいただいた羽二重餅で、6臼つきました。

つくのがおもしろくて、「もう1回する。」と何度も順番を待っている低学年の子。大人顔負けのしっかりしたつき方ができる高学年の子。

半日かけて、みんなの手でみごとなお鏡もちができあがりました。

老人クラブ文化祭

昨年11月13日(木)、恒例の老人クラブ文化祭が開かれ、たくさんの会員が参加されました。

大正琴やコーラスの発表の他楽しいアトラクションもあり、おおいに盛り上がりました。

せせらぎフェスタ

11月16日(日)、道の駅せせらぎの里こうら「の秋のイベント せせらぎフェスタ」が開催され、下之郷郷づくり委員会からも出店。みたらし団子や葉ボタン・トマト・もち米を販売しました。

穏やかな秋晴れに恵まれて来場者も多く、用意したものは2時前にはほとんど完売という盛況ぶりでした。

日赤奉仕団研修旅行

同11月30日(日)、水質保全や防災の取り組みについて研修を深める目的で日赤奉仕団が研修旅行を行いました。

午前中は、新旭町針江の「かばた」など水を活かしたまちづくりの様子を見学し、午後は、姉川防災センターで、防災の基本、応急手当の実際を学びました。

茶枳尼天尊像掛軸（だきにてん）

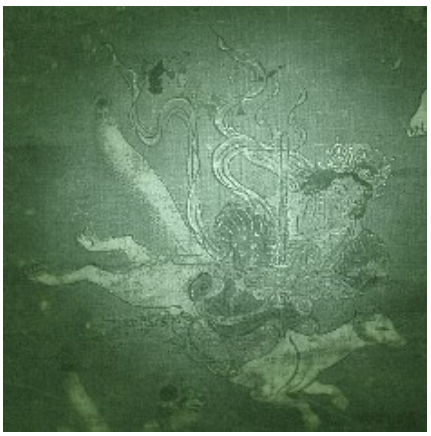
下之郷区が保有している文化財の一つに「茶枳尼天尊像」の絹本着色の掛軸があります。

平安時代前期に活躍した有名な絵師巨勢金岡筆と箱書きされており、たいへん貴重なものであることから、現在は県の施設に保管委託しています。

その茶枳尼天尊像の掛け軸が、長野市立博物館の第54回特別展「善光寺と戸隠飯縄信仰」平成27年4月25日～5月31日)で展示されることになりました。

長野市立博物館の担当の方から、借用依頼とともに、この曼荼羅図の赤外線写真も送ってくださいました。

長い年月を経て詳細が見えづらかったこの掛け軸の本来の姿が鮮明に映し出されており、改めてこの掛け軸のすばらしさが分かりました。



区民のつどい

講師を招いて人権問題を学び合う「区民の集い」が、昨年の11月15日(土)夜に開催されました。

講演に先立って、8月に行った花壇コンクールの表彰が行われました。

続いて、社会福祉法人わたむきの里の盛井智彰さんの人権コンサートを聴きました。

ギターに合わせて楽しく歌いながら、その中に障害者問題の現実と課題について語ってくださいました。

東日本で地震が起きたとき、障害者はどんな状態に置かれていたのか。」障害者自立支援法が障害者の家庭を壊していく現実」など、聴いていて様々な新しい学びのあったすばらしい講演でした。

人権よもやま話(16)

『ごめんね青春』

あけまして、おめでとうございます。

ご家族おそろいで、輝かしい新年をおむかえのことと、心よりお慶びを申し上げます。

「区の役員でも無いのに…。」なんてことを、去年書いてしまったからか?昨年4月より、大役をおおせつかる結果となりました。「私ごときに、務まるのか?」との思いもありましたが、おかげさまをもちまして今日まで、何とか無事に上野区長さんの補佐を務めて参ることができました。これもひとえに、区民の皆さんのご理解とご協力があればこそ。あらためて、心より有り難く厚くお礼申し上げます。

さて、私はテレビドラマ大好き人間だという話を以前しましたが……。昨年の最終クール(9月~12月)も、多くのドラマが放映されました。『すべてがFになる』は、まだ1話も見られていませんが。それ以外で私のお気に入りは、表題の『ごめんね青春』と『Nのために』でした。

私と意見が合った方がおられたとしたら、とても嬉しく思うとともに、一度その方とドラマについて語りあいたいくらいです。今回の「よもやま話」も、そんな中の『ごめんね青春』からです。人権に直接関係有るの?とか、ドラマの内容について詳しく話せば長くなるので、お話したいシーンだけをを簡単に……。

高校生が文化祭をするにあたって、やっている内容が「寒い」と言う批判を受けたとき(寒い=内容や中味が貧弱である、貧しい、みすぼらしい)、それを聞いて主人公の先生が生徒達に返した言葉が素晴らしいと感じました。

それは、「文化祭なんて、プロがやるわけではないから基本的に寒い。しかし、寒いことをやっている人のほうが、寒いと言ってバカにしている人より熱い。」という言葉です。そして、「なぜかといえば、寒いと言って笑っている人たちは、所詮は外側からしか見ていないから。」と付け加えます。

先生は、学生時代「何を熱くなっているんだ。」と笑って冷ややかに見つめるような寒い人間だったと告白します。「参加しても寒い、参加しない人はもっと寒い。だったら参加してその熱さを体験した方がいい。」と生徒に訴えました。

皆さんも、こんな経験をしたことがありませんか?文化祭や体育祭は大変だったけれど、終わってみればなんか楽しかった、と感じたことが……。

はじめて、区行政の一端を担わせていただいて、今後の下之郷の課題についていろいろと勉強をさせていただきました。私も、笑って冷ややかに見つめていたわけではありませんが、ずーっと外側から眺めてきた身です。

そして今回、その課題の深刻さや、課題を解決するにあたっては区民の皆さんにも、学生時代のように『文化祭』や『体育祭』に、進んで参加してもらわなければならないことをあらためて感じました。

今後、じっとしていても国も県も町も、何もしてはくれません。それこそ、区民の皆さんに進んで、その『熱い』を体験していただかなければ、下之郷の活性化どころか、維持継続すら困難になるのではないかと感じました。

いつも、えらそうなもの言いで申し訳ありませんが、どうか皆さん『熱い』体験ツアーへのご参加、よろしくお願い申し上げます。

甲良町人権問題啓発指導員
藤居　桂三)

今月の漢字クイズ

前号と同じ形式の漢字クイズです。
漢字の一部が消えています。その四字熟語は何でしょう？
全問正解の方に粗品を進呈いたします。ふるってご応募ください。(締め切り　2月末日)

①一［　］打尽　②［　］可思［　］外
③［　］木［　］立　④［　］［　］年糕

前回の答えは　①優柔不断　②馬耳東風　③日進月歩　④夏炉冬扇　でした。
今回のクイズのヒントは、①ア行②カ行③サ行④タ行から始まる熟語です。

正解者

川並　千町さん
中釜田津子さん
古川　きささん
安澤まゆみさん
田中智賀子さん
安澤美佐子さん
松宮喜代子さん
西堀　利江さん
木村　和　さん
辻　重博　さん

ちょっとひとこと

秋の落葉舞う季節となり、桂城神社の境内周辺はすごいものです。お掃除下さる貫名様のご苦労も大変でございますが、何か心せわしく、物悲しい季節を感じます。

学校帰りの子どもに「お帰り」と声をかけると「ただいま」と返してくれます。うれしい気持ちになります。

懐かしの風景はとても懐かしい写真でした。小生も写っており、誰が提供されたものでしょうか。私も家にはもっておりますが。

懐かしの風景㉔

昭和29年4月16日の春祭り。二階堂山車前での写真です。

この頃、小学校の女の子たちは祭が近づくと踊りを稽古をし、祭当日、山車の舞台で踊っていました。

この二階堂山車も老朽化により取り壊され、今はもうありません。

前に並んでいる若者たちも今では80歳を過ぎておられます。

さて、この中に写っている人たちに見覚えがありますか？

短歌欄

秋深し黒豆打ちの槌の子の夫のとんとん聞く昼下がり　上野　りゑ

朝まだき鳥の声に目覚むれば夫は仏間に経を読みをり

この年の秋もふかまり報恩講読経の声の静かに聞こゆ　藤居　和子

湯上がりの指に薬をぬりながらおしめ洗ひし遠き日おもふ

白銀の如きすすきに風立ちて訪ひくる冬を心して待つ　川並　千町

春に時く花と野菜のカタログを生きてるつもりで一日眺むる

杖にすがりたどたどしけれど白き髪撫づるさはやかな甲良の秋風　上野　フサ

夢に来て笑み浮かべつつ黙す夫われに告ぐべきこと如何ならむ

編集後記

刀メムシが大量に発生する年は大雪と新潟出身の人から聞いたことがあります。その話のとおり、12月には四国で大雪になるなど、近年にない雪の降り方でした。異常気象が当たり前のようになっていくのが怖いです。人間は、所詮自然の前には無力。異常気象は警告と受け止め、謙虚な姿勢でこの一年を過ごしていきたいものです。